

新発想、商店街に

帯広電信通り商店街

振興組合(長谷渉理事長)は、2013年度中に十勝管内の短大生や大学生をはじめ、団体や関係機関を交えた「商店街再生会議(仮称)」を発足させることを検討している。商店街外からの意見や要望などを取り入れた中長期計画の策定が目的。空き店舗を活用した産学連携チャレンジショップの開設、商店街を担う若手事業者の育成も視野に入れる。

電信通り

同商店街は活性化事業計画(11~15年度)を策定。同計画は地域商店街活性化法に基づく経済産業省の認定を受け、国や道などの補助金を活用している。再生会議は計画折り返しに当たっての取り組みと位置付

学生らと再生会議

商品開発やチャレンジショップ視野

け、同組合は商店街内外の意見を聞きながら、今後の方向性を打ち出したい考えだ。

活性化事業計画は「高齢者や障害者と協働・共生する商店街」をテーマに、社会福祉法人や障害者施設と協力し、空き店舗の活用、園芸市、祭りなどのイベント企画を通じた活性化に取り組んでいる。3月にはデイスーパーに通う高齢者が働く「ミートパイの店てのひら」が開設を予定。同店のオープンで空き店舗を活用した交流施設は、3年間で7カ所にする。

計画した活性化事業が形となる一方、事業費を確保するための駐車場や障害者向け住居による収益事業は11年度に始まったばかり。活性化の中核となってきた役員の高齢化が進んでおり、同組合の高橋正章専務理事は「若手に商店街の運営を引き継ぐためにも、外

部からの意見は刺激になるはず」と再生会議に期待す

る。また、再生会議をきっかけに学生のアイデアを生かしたチャレンジショップを空き店舗を使って開設することも目指す。長谷理事長は「新しい発想の商品開発や学生が経営を体験できる機会をつくりたい」と話している。(深津慶太)